

## 凡例

- 本論で引用される「荒地」同人の作品のテクストは以下の通りである。
  - ・ 北村太郎作品は思潮社平成二年刊行の「北村太郎の仕事」（全集）を使用する。
  - ・ 「荒地」作品・評論は国文社から昭和五十年より復刊された年刊「荒地詩集」および「詩と詩論」を使用する。
- 北村太郎の作品リストは巻末付録に示してある。
- 本論で引用される文章の出典は、一部本文中に示され、そのほかはその都度脚注によって示される。
- 引用箇所は文字を小さくし、前後を一行あけ、本文より字下げしてある。
- 引用に際しては、出来るだけ原文に忠実であるように努めているが、特殊な読みが与えられていないルビは全て省いた。
- 引用した詩の行の文字数が多く本来改行していないにも関わらず次行に跨る必要が出た場合には通常の行よりも字上げしてそれと示して改行する
- 脚注は、各章ごとの通し番号であり、章が変わると再び1から順に始まる。また、脚注はその頁内左部の傍線の左に示される。
- ページ数はページ下に算用数字横書きで記してある。
- 本論では年は西暦を漢数字で下二桁を用いて表す。出典を示した部分では西暦を算用数字で横書きで表す。
- 本論では雑誌の「対談」や「鼎談」を多数引用したが、それは他の文学ジャンルと異なり現代詩の場合広く時評がわりに使われている傾向があるからである。
- 本論は、序章から終章まで脚注を除いた本文のみでおよそ、148804 文字であり、原稿用紙に換算するとおよそ 372 枚である。